

主日礼拝

2025年4月6日 10時20分～

司式:

奏楽:

「偉くなりたい」

『創世記』では、イサクの息子であるヤコブが、次男でありながら、兄エサウが受けるはずの長子の権利を得たいと願っていました。そんなあるとき、ヤコブが煮物を作っていると、エサウが腹を空かせて野から帰ってきて、「食べさせてくれ」と願います。ヤコブは長子の権利と引き換えに煮物を与える交渉に成功します。長子の権利とは、父の遺産を、他の子よりも二倍多く受けるだけでなく、祖父アブラハムに神が与えられた祝福も含まれているとされていたのです。エサウが長子の権利を軽んじたということは、神をも軽んじたということであり、逆にヤコブは神を重んじており、その祝福を期待していたのです。この出来事に見られるように、ヤコブはイサクの後継者となり、後には「イスラエル」という名が神から与えられ、その息子達は、イスラエル 12 部族を形成していきます。こうしてヤコブは“神の民イスラエル”の先祖となるのです。

『マタイによる福音書』では、ゼベダイの息子たち(ヤコブとヨハネ)の母が主イエスのところに来て、「私の二人の息子が、あなたの御国で、一人はあなたの右に、一人は左に座れるとおっしゃってください」と願います。主イエスが神の国をもたらし、王となる方だと信じたからです。それはヤコブとヨハネの願いでもありました。彼らは主イエスがこの世の王たちと同じく、威張って支配する王になると考えており、その両側に座る大臣の座を狙っていたのでした。主イエスは彼らにおっしゃいます。「あなたがたは、自分が何を願っているか、分かっているか。私が飲もうとしている杯を飲むことができるか」。主イエスはこの世的な王ではなく、人々の罪を背負って十字架で死ぬほどに、人々に仕える王なのです。主の両側に座る者は、主イエスと同じく神に仕え、人々の僕として奉仕する者とならねばならないのです。

《神の招き》

前奏 『けがれなき神のこひつじ』 J. パッヘルベル
招詞 イザヤ書43章19節
賛美歌 21-297

《神の言葉》

祈禱 聖霊の照らしを求める祈り
聖書 創世記25章29～34節 (旧約36頁)
マタイによる福音書20章20～28節 (新約38頁)

祝福式 21-544
交読詩編 詩編118編1～9節 (139頁)
賛美歌 21-393
説教 「偉くなりたい」 八木浩史牧師

祈禱
賛美歌 21-469

《感謝の応答》

信仰告白 使徒信条
就任式 21-96 奏楽者、教会学校教師

献金
祈禱 献金当番
主の祈り (週報表紙、ホームページ掲載)

《派遣》

頌栄 541
祝福
報告 4月誕生者祝福
後奏

礼拝当番: (役員:) 献金当番:
音響: 映像: